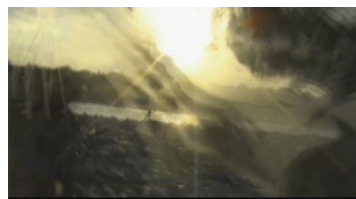




ティム・サトミ「まどろすの歌」<刺しゅう>



吉増 剛造  
IgozoCiné『朔太郎フィルム日記』<映像>



小松 透「浜辺」<写真>



大橋 忍「こころ」<切り絵>



テトツチト「猫町」<陶>

展示作家=<アニメーション>有吉達宏、岡崎恵理、折笠良<切り絵>大橋忍<コラージュ>川崎継子<版画・ドローイング>山口マオ<版画>高橋加代子<刺しゅう>ティム・サトミ<ダンス>勅使川原三郎<陶>テトツチト<渡邊庸子>、林麻依子<音楽>世田谷ピンポンズ、Rinn、carry音<写真・映像>吉増剛造<写真>小松透、平山利男

● 学芸員による展示解説  
日時 8月11日(土)・9月1日(土)・10月6日(土)、午後1時30分〜2時30分  
● ロビーコンサート  
「こんなとらぶんとコンサート」サクタロウをうたう」を開催します。出演はフォークシンガーの世田谷ピンポンズさんと本市在住でアコーディオン奏者のRinnさん、ギターの弾き語りをするcarry音さん。萩原朔太郎が作った詩に曲を付けた音楽を披露します。  
日時 9月8日(土)午後4時



萩原 朔美館長

この企画展は、アーティストが立体作品やアニメーション、J-POPの楽曲などで朔太郎の詩を表現したものが並ぶので、詩に苦手意識がある人も楽しめます。今までの朔太郎像が崩れるような斬新な展示です。ぜひ、解釈の違いを楽しんでください。

### 開館25周年記念コンサート

「ぼつねん 中也、朔太郎、俊太郎を歌う」を開催します。出演は電子楽器オンド・マルトノ演奏家の原田節さんとジャズピアニストの谷川賢作さんによるユニット「孤独の発明」。萩原朔太郎などの近現代詩を歌詞にして演奏します。費用は企画展の観覧料400円です。

日時=9月17日(月)午後2時、同午後6時

対象=一般、先着各100人

申し込み=8月4日(土)から同館へ



### 心を動かす朔太郎の詩の力

本市を代表する詩人、萩原朔太郎。第一詩集『月に吠える』の刊行から101年、没後76年経った今も詩は読み続けられ、文学だけでなくさまざまな分野に影響を与え続けています。

この企画展では、朔太郎の詩に影響を受けたアーティストたちの解釈と表現による、新しい作品に触れることができます。文学と他の分野の融合で、朔太郎の詩の世界を広げ、より多くの人の心に届けます。

# 多様な解釈で斬新な表現 企画展・サクタロウをアートする



2018年 7/28(土)~10/14(日)

朔太郎の新しい解釈を知る  
前橋文学館で、企画展「サクタロウをアートするー解釈の快樂」を10月14日(日)まで開催しています。日本近代詩の父・萩原朔太郎が生んだ詩に影響を受け、現代を生きるアーティストたちが作ったアート作品を展示。朔太郎の詩がアーティストたちにどのように受け止められ、解釈され、表現されているかを見ることが出来ます。文学とアートが出合い、反応することで生まれる豊かな表現や、これからも続いていく朔太郎の歴史の、新たな展開の可能性を考えます。  
前橋文学館  
〒027-2335・8011

学生の頃、教科書に載っていた萩原朔太郎の『死』という詩を読んで、「こんな世界があるんだ」と衝撃を受けました。大人になってアコーディオンを始めてからも、朔太郎の詩がずっと印象に残っていて。そんな中、前橋文学館で2015年にあった「朔太郎トリビュート演奏会」に参加して、朔太郎の詩にアコーディオンの曲を付けて演奏するようになりました。今回の企画展では、「朔太郎本人がどこかで聞いているかも」と思いながら、気を引き締めて演奏したいと思います。ぜひ聞いてみてください。



アコーディオン奏者 Rinnさん